

めでいかすとる
Médicastre



「暮坪の棚田」

鶴岡地区医療学術懇話会抄録

日時：平成26年9月24日(水) 19:00～
場所：グランド エル・サン

『 C型肝炎の病態と最新治療 』

山形大学医学部第二内科
准教授 齋藤 貴史 先生

C型肝炎ウイルス（HCV）感染では、感染者の約7割が慢性化するとされている。C型慢性肝炎は、多くの場合、自覚症状を伴うことなく、肝硬変・肝がんへと進行する危険を有する疾患である。特に、肝臓の線維化の進行は、発がんリスクの増大と密接に関わり、肝硬変における発がんは年率7～8%と高率である。

現在、わが国のHCV感染者は150万人～200万人と推定され、多くは65歳以上の高齢者である。肝がんによる年間死亡者数は2005年をピークに減少傾向となったが、現在でも年間約30,000人が肝がんで死亡しており、肝がんは日本人のがん死原因の第4位である。肝がんの約70%はHCV感染によるものと推定されているので、抗HCV療法の進歩により、肝がん死亡者数の減少スピードの加速が期待される。

C型肝炎における発がんに関連する因子としては、高齢、肝線維化の進行、常習飲酒、ALT値の高値、そして糖尿病・肥満が挙げられる。特に、C型肝炎とインスリン抵抗性・2型糖尿病の関連が示唆されており、C型慢性肝炎における糖代謝異常が肝発がんと深く関連している可能性がある。発がんの危険因子を有する患者では、早目の抗HCV療法の導入が望ましい。

我が国のHCVに対する抗ウイルス療法は、1992年のインターフェロン療法に始まり、その後は急速な進歩を遂げてきた。インターフェロンのPEG化、PEG-IFN/リバビリン（RBV）

2剤併用療法、テラプレビルやシメプレビルなどの経口抗ウイルス剤（DAA）を加えたPEG-IFN/RBV/DAA 3剤併用療法、そして今年9月にはDAAによるIFNフリーの経口DAA 2剤併用療法が、標準治療の一つに加わった。C型慢性肝炎の全例治癒に向け、いよいよ最終コーナーにさしかかって来たと言える。現在、様々なIFNフリーのDAAが開発されているが、わが国で最初に標準治療に加わったDAA療法は、アスナプレビル・ダクラタスビル（Asunaprevir・Daclatasvir）の2剤併用療法である。この治療法の適応ならびに用法は、IFN不適格未治療/不耐容/前治療無効例のHCVジェノタイプ1型のC型慢性肝炎または代償性肝硬変に対して、24週間の投与となる。同剤の国内第Ⅲ相試験においては、HCV持続排除（SVR）例が全体で84.7%と高く、IFN前治療無効例に対してもSVR例が約80%と奏功する。また、IFN療法で見られた多彩で重篤な副反応はなく安全性の高い薬剤であるが、ASTやALTの上昇に代表される肝機能障害の発現が報告されているので、定期的な血液検査が必要である。また、DAAの薬理学的特性上、耐性ウイルスの存在や出現に留意する必要がある。

C型慢性肝炎の全例治療時代が近づいている。抗HCV療法の更なる進歩が期待される。

庄内地域肺がん予防「禁煙指導講演会」

日時：平成26年9月5日(金) 19:00～
場所：鶴岡地区医師会 3階講堂

禁煙支援に関する最新情報

～子どもの受動喫煙の害・妊産婦への禁煙支援の実際～

静岡市保健所 所長 加治 正行 先生

子どもはわずかな受動喫煙によっても健康に悪影響を受けることが明らかになっており、「受動喫煙に安全レベルはない」と言われている。子どもの受動喫煙との関連が証明されている疾患としては、乳幼児突然死症候群、気管支喘息、呼吸器感染症、中耳炎などがあるが、この他にも様々な疾患との関連を指摘するデータが蓄積されつつあり、知能の発達に悪影響を及ぼすとのデータも報告されている。

子どもたちを受動喫煙の害から守るためには医師の役割が大きいですが、まず問診をおろそかにしない姿勢が大切である。気管支喘息や上下気道炎、中耳炎など、小児科の外来でよく遭遇する疾患のほとんどは受動喫煙が危険因子となっているため、診察の際には必ず家族の喫煙状況を確認する必要がある。

家族の喫煙に関して問診し、子どもの病気と受動喫煙の関連について一言付け加えるだけでも（たとえば「お子さんがタバコの煙を吸うと中耳炎にかかりやすくなるんですよ」など）、子どもの受動喫煙を防ぐ効果とともに、家族が禁煙を考えるきっかけにもなるであろう。

妊娠中の女性の喫煙・受動喫煙は胎児に深刻な健康被害をもたらすが、一般にはその深刻さがあまり知られていないように思われる。様々な害の中でも、特に妊婦や家族に知ってほしい害は、タバコ煙中の一酸化炭素によって胎児が酸素欠乏状態になり、脳の成長発達に悪影響が

及ぶことである。その結果、喫煙する妊婦から生まれた子どもは知能指数が4～6ポイント低下するとの報告が複数ある他、妊娠中の喫煙は子どもの注意欠如/多動性障害（ADHD）の発症率を2～3倍に増加させるとの報告が世界各国から相次いでいる。

妊婦や家族にはこのような危険性を知らせ、禁煙の重要性を伝える必要がある。ただ、伝え方には注意が必要で、あまり断定的な言い方ではなく、「最近こんなデータも出ているのですよ」といった伝え方が良いと思われる。

妊婦の禁煙治療には禁煙補助薬は使用しにくく、意志の力で禁煙してもらうしかないため、常に妊婦を励まし続ける身近な存在が重要で、家族（特に夫）の協力が不可欠である。また、医療スタッフが常に妊婦の気持ちに寄り添い、常に禁煙をサポートする姿勢を示すことが大切である。

そして、妊娠中に禁煙できなかった母親に対しては、禁煙支援をあきらめたり責めたりするのではなく、「取り返しはつく！ 今からタバコをやめて愛情を注いで育てれば、あかちゃんは立派に育ちますよ」と励まして、再度禁煙を勧める姿勢が大切であろう。

鶴岡天腎祭

日時：平成26年9月28日(日) 14:00～
場所：鶴岡市先端研究産業支援センター
(鶴岡メタボロームキャンパス)

転ばぬ先の「知恵」知って得する腎臓と神経のお話

*** 第6回 市民公開セミナー 鶴岡天腎祭 ***

鶴岡市立荘内病院
内科 安宅 謙

去る平成26年9月28日、鶴岡メタボロームキャンパスのホールに於いて、慢性腎臓病の市民公開セミナーが開催されました。爽やかな秋晴れの日曜日、約130名の市民の皆さんに御参加いただきました。

鶴岡協立病院 看護師 上田 和子さんによる司会進行で、楽しく和やかな会となりました。

新潟大学腎医学医療センター 丸山 弘樹教授から、当日プログラムの概略などをお伝えする開会の御挨拶がありました。

《かんたん やさしい 腎臓の働き》では、慢性腎臓病には生活習慣病という側面があること、健診・かかりつけ医の重要性を伝えました。

鶴岡市立荘内病院 管理栄養士 齋藤 禎子先生から、塩分制限 1日6g未満を目指した《腎臓にやさしい食事》をお話ししてもらいました。参加された方々の食卓に生かされることと思います。

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏先生から、《慢性腎臓病と脳血管障害》という演題で、当地域での脳卒中パスから考察されること、認知症について、御講演頂きました。私たちの地域での現状、塩分の摂り過ぎも影響している高血圧症との関連などを教えていただきました。認知症は高齢化社会で避けられない問題となっていますが、脳卒中を予防する生活習慣によって少しでも食い止めることができる可能性を期待します。

《認知症と運動療法》では、適度の運動に、考えたり、音楽を聴いたりして脳も刺激することで認知症を予防できることを、鶴岡市立荘内病院リハビリテーションセンター 佐太木 淳一

先生とラジオ体操で実際に体を動かして、参加者の方々にも感じてもらえたのではないのでしょうか。

鶴岡市立荘内病院 看護師さんが、《CKD28—自分でプロデュースする方法—》と題して、寸劇の中で日常生活の注意をクイズ形式で確認しながら、楽しく教えてくれました。

わが国での慢性腎不全に対する血液透析療法は、昭和41年から行われるようになり、現在、約30万人の方々が治療を受けています。透析療法を身近に感じていただけるよう、血液透析・腹膜透析・腎移植の3つの腎代替療法の紹介も併せて、鶴岡市立荘内病院 臨床工学技士 石塚 篤先生から《透析療法のあゆみ》を語ってもらいました。日々、患者さんと接してきた経験・想いが感じられるお話でした。

医師会長 三原 一郎先生に御挨拶を頂き、第6回天腎祭を閉会しました。

毎年恒例の秋の天“腎”祭として、鶴岡市民の皆さんへの認知度が更に上がるよう継続していきたいと思います。医師会の先生方を初め職員の皆様方の温かい御支援もよろしく御願致します。



准看護学院体育大会

日時：平成26年9月19日(金) 9:00～
場所：小真木原総合体育館

9月19日(金)、年に1度、恒例の1・2年親善体育大会が小真木原総合体育館で行われました。大方の予想に反し、わずか3点差で1年Aチームが見事優勝しました。3か月前は体育の先生が困り果てるほどパスもろくにできなかった1年生です。それが、つないでつないであきらめないで勝ち取ったまさにチームワークの勝利でした。これからもこの気持ちを忘れずに成長してほしいと思います。

ところで、午前のレクリエーションの借り物競争にM局長が女子学生と嬉しそうに手をつないで力走していました。写真がないのが大変残念です。来年はバレーボールに出ると言っていました…。乞うご期待!!

体育大会実行委員長 2年 齋藤 萌実

春から準備してきた体育大会がようやく終わり達成感でいっぱいです。企画・運営と普段しなれないことでどうなることかと思いましたが、他の体育委員やクラスみんなに支えられて、なんとか形になったと思っています。本当に周りには感謝しかありません。

今まで何かの幹事などをすることがあっても顔なじみであったり、少々トラブルがあっても何とかなるかと楽観視していた部分がありました。しかし、今回は大勢であり、かつ

何も知らない1年生に楽しんでもらうにはどうしたらいいのかと悩むことが多かったです。物事を進めていく筋道、説明するタイミングや順序、言葉選びなど様々な視点で考える力がついたように思います。

体育委員 1年 廣瀬 智也

体育大会を終えて一番の目的だった「クラスの団結」は、より一層強くなったと思います。早い時期から企画・運営と準備していただいた2年生の体育委員の方々に感謝しています。体育大会を通して私が最も強く感じたことは「全力で取り組むことの大切さ」です。メインの競技であるバレーボールにおいて、不安な状態からのスタートでした。練習でもなかなかパスが繋がらず、このままでは2年生と勝負にならないと言われていました。

しかし、当日はいつもの練習以上にパスが繋がりました。何とか1勝し午前中の競技とあわせて優勝することができました。勝負はたった1日で決まりますが、そこに至るまでの過程も大切だなと感じました。

これからの勉強、実際の看護の現場に出ても全力で何事にもチャレンジして一人でも多くの人のためになるような准看護師になれるように頑張りたいと思います。



YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

「YBCラジオのドクターアドバイスに出演して」

阿部医院 真島 英太

私は昨年荘内病院を退職して父親の診療所に入り1年半が過ぎました。その間に温海の阿部医院も手伝うようになりめまぐるしいような時が過ぎました。

そんな最中、今回このお話をいただいた際にいつかやらねばならないのなら今のうちにやっとうと勢いでラジオの依頼を受けました。話す内容は普段の診療でもよく見かける排尿障害について話すことに決め、すぐに細かい内容をまとめました。

実際に収録にいくとわかったことは診療のことは半分で後の半分は趣味の話や自分の人柄など聞かれることが多かったです。前者は患者さんにいつも話しているような感じで、前立腺肥大や過活動膀胱の話をしたが、後者の方はあまり考えてこなかったためとっさに考えて奥さんや子供の話が多くなり、自分の中で随分偏った内容になりもう少し番組について予習して行けばよかったなと思いました。

そんな準備不足な私でもアナウンサーの方にちょくちょく助けていただいたので奥さんで行った旅行の話題で話を広げたりして何度か録

り直ししながらなんとか3時間半位で収録を終えました。

収録の後、自分の収録を思い出しながらテレビで話しているドクターを見ていると知識が豊富なだけでなくアドリブを入れたりして気持ちの上で余裕もあるなあと感心してしまいました。

「次は自分の相撲がとれるように頑張ります！」

協立病院 市川 誠一

この夏は、山形県医師会提供のYBC山形放送ラジオ番組「ドクターアドバイスで きょうも元気」に出演させて戴くという大変貴重な体験を得ました。

7月21日月曜日から25日金曜日までの連日5日間の放送でした。

一週間の番組テーマを『あなたの最上川・国道7号線は大丈夫ですか?』としました。そこには心臓の冠状動脈や脚の大腿動脈などを河川や国道に例えて簡潔に話したいという意図がありました。そして拙い経験ではありますが、心臓血管外科医としての或いは循環器内科医としての経験をもとに、様々な疾患の病態生理や予防法に、そして治療としての生活習慣指導、薬物治療、血管内治療・カテーテル治療(EVT)、手術治療、リハビリテーション治療について出来るだけ平易に話す様に努めました。最終日にはこの一年間鶴岡で取り組んできました庄内南部地域連携パスの一つである急性心筋梗塞パス誕生についても少しだけ言及させていただきました。

録音当日はお相手戴くアナウンサーは誰なのか、かなり興味がありました。加藤プロデュー



サーによるガイダンスが先ず初めに10分程あり「間もなくアナウンサーが参りますのでお待ち下さい。」と告げられます。果たして現れたのは門田和弘アナでした。通勤時に車中でよく聞く聞き覚えのある声の方でした。

番組の収録は、基本的に彼の誘導で質問や振りに答えていくという形式でした。やはりプロフェッショナルなので間の取り方やまとめ方の旨さには本当に感心させられました。

ただ自由に喋ったり、振りに突っ込み返したり、ボケたりは許される雰囲気では残念ながらありませんでした。収録終了後はなんと申しましょうか、何か両手を縛られて闘った様な、自分の相撲が取れなかった様な淡い自責の念にか

られました。

もっとも自分が自由に喋ったら番組にならなかったかもしれません。もしも将来的に次の機会が戴けましたら更にスキルアップして魅力的な放送にしたいと思います。



マイペット&マイホビー

— 第 91 回 —

パソコンと私

本田耳鼻咽喉科医院 本田 学

1. はじめは電気部品から (1971年～)

小さい頃より、コンピュータは好きであったが、見た事も無い夢の機械であった。1971年電気好きでもあった田舎者が予備校を東京にしたため、休日ごとに秋葉原に通っていた。その頃の秋葉原はまだ、純粋な電気街であったが、コンピュータ関連は無かった。それでも、勝手に電子部品等を集めたり、組み立てたりして、気分はコンピュータとして楽しんでいた。(同年、アメリカで4004というワンチップマイコン(4ビットのCPU)が出来、それを使うとコンピュータが出来るとの情報が入るのは、数年後であった。)

翌年地元の大学に入り、秋葉原から多少遠のいたが、アマチュア無線の免許を取り悦に入っていた。その頃インベーダーゲームが出現、多数のIC回路が使用され、部品さえあれば作れるはずだが、自分で手作りするにはテレビに繋いで遊ぶホッケーゲームまでであった(その頃は画期的なゲームとして、よく友人に貸し出されていた)。作るのは得意であったが、ゲームそのものは下手で、その後作るほうに専念した。

2. パソコンとの出会い (1976年ワンボードマイコン発売)

大学も高学年になると、忙しいのに、オーディオに懲り、スピーカーやアンプ(真空管アンプ)を手作りしていた。その間8008という8ビットCPUが出来(1972年)、次いで改良型の8080が出来(1974年)、1976年には、そのCPUを使ったパソコン製作キット(ワンボードマイコン)が市販される事になった。コンピュータが手作り出来るということで、秋葉原に行行った。純正品は16万円(NEC製TK-80)であったが、類似のキット(MK-80)が少し安く売っていた。さっそく購入し、山ほどの半田

付けをして、組み立てた。動くのだが、説明書が厚過ぎ、また内容が機械語等についてのみで分かり難く、読みきれなかった。マイコンの表示は8桁の数字とブザー音しか出ないのだが、自分でコンピュータを持つことだけで満足していた。



MK-80 手作りのワンボードマイコン

そのうち、アップルがパソコン(アップルII)を市販、60万円と高嶺の花だった。(その頃秋葉原を散策していたら、アップルIIのコピーで“オレンジ”というパソコンあり、つい買ってしまった。しかし、整数の計算しか出来ず、結局使い物にはならなかった。)



オレンジ(アップルIIのコピー)

3. 仕事とコンピュータ (1979年～パソコン時代の幕開け)。

大学を卒業、ミニコンを使用している事につ

られ耳鼻科に入局。ミニコンを使い始めるが、ソフトは紙テープ。簡単なソフト（BASIC）を注文すると、100万円。メーカーに電話するとOSはなんだかんだと鼻にも掛けられず、ミニコンをあきらめて、パソコンへと傾倒するようになった。



自宅のパソコン。
記憶装置がカセットテープ

1979年、NECからPC-8001という、すぐ使えるパソコンが発売され（CPUは8ビット；Z80）、早速購入、データ処理等に使用していた。OSはマイクロソフトのBASICというコンピュータ言語が入っていた。BASICは覚える内容が簡単で自分でソフトが書けるため、熱中してしまった。医局内の誰もパソコン等を知らない為、一人で好き勝手にソフトを組んだり、学会に発表したりしていた。しかし、実用的にはもう少しであった。

1981年、多少実用にも使えるPC-8801が発売、教授に談判し1セット購入してもらった（表示はまだカタカナまで）。

医療機器とパソコンとの接続機器を手作りし、データ入力処理ソフトを書き、パソコンによる検査機器システムを作り上げた（この頃が一番のめり込んでいた）。



パソコンによる検査システム

1979年には、パソコン雑誌アスキーの特派員に選抜され、ロサンゼルスへパソコンの視察旅

行をする予定だったが、ツアーそのものが中止になり行けなくなった。ごねたら、他の海外ツアーに行ける事になった。（ロサンゼルスとハワイの観光旅行。尚これがはじめての海外旅行で、旅行費は当時36万円だったが無料になった。もしパソコンの視察旅行に行っていたら、もっとパソコンにのめり込み、人生も変わっていたかもしれない。）

4. パソコンの広がり（1982年～）

1982年、日本のパソコン史上、最大のヒットとなるPC-9801（CPUが16ビット）が登場。アメリカのパソコンと違い日本語（漢字）を楽々と使え、パソコンが日本中に広がるきっかけを作った。学位論文をパソコンで書けと指導教授から言われ、上記のパソコンを購入、出たばかりの一太郎ワープロソフトで書いた（今では当たり前だが、その頃は画期的だった）。国際学会にも提出、英文はパソコン用の英訳ソフト（その頃は60万円！）を利用、英文タイプはIBMの電動タイプライターのキーの数だけ押しボタンの有る機器を載せ、パソコンから打ち込んだ（その頃のプリンターはまだ使い物にならなかった）。

しかし、CPUが16ビットになると、内部の命令系統が複雑になり、内部を一人で理解するのは困難であった。これ以上のめりこむと本業を疎かにしそうであった。パソコンの師匠でも有った、生理学の教授に、まずはちゃんとした医者になってからと諭され、それ以上踏み込まなかった。また本業が忙しくなり、その後のDOS/V、Windows時代へ乗り遅れてしまった。

5. おわりに

今でもパソコンは自分で組み立てるが、なにせゆっくりで、良いスペックのシステムも、出来上がる頃は、もっと良い機種が市販されている様な状態で、ちょっと古いパソコンばかりを使っている。

飲み会では気が大きくなり、ビルゲイツになり損ねたとほらを吹いているが、パソコン黎明期に立ち会えた事は大変満足している。

(2014.8.28)

特別寄稿

地霊の生みし人々 — 相良守峯（下） —

黒羽根整形外科 黒羽根 洋司

相良守峯は明治28（1895）年、鶴岡市若葉町に父守一、母慶の長男として生まれた。二人の姉と8歳下の弟がいたが、歳が離れていたせいもあり、幼少時は一人っ子のようにして育った。幼名を鉄太郎^{おの}といったが、いつも鉄太郎にまちがえられるので、その煩に耐えず、17歳の時に、群長の許可を得て守峯^{もりお}と改名した。

荘内中学で学ぶ

今日の隆盛からは想像もつかないが、守峯が入学したころ、東北以北の中学校で、いわゆるサッカー部をもっていたのは、仙台一中と荘内中学だけであった。まだまだサッカーは物珍しく、一般には知られていないスポーツであった。この激しく動き回り、ひたすらボールを追いつつながらゴールをめざす競技が、少年の心をとらえた。練習は毎日おこなわれ、日が落ちてグラウンドが暗くなるまでつづいた。

中学の5年になると、松島と仙台への修学旅行があり、その機会にサッカーの試合をやろうという相談になった。まだ鶴岡から新庄まで鉄道が伸びていなかったため、生徒たちは14里の道を歩かされた。夕方に鶴岡を発ち、途中で休みをとるが、一晩中歩き続けて、翌朝に新庄へ着くという、体力をかなり消耗する旅であった。

さらに仙山線も開通しておらず、走っているのが奥羽本線だけ、必然福島まで出て、東北本線に乗り換えるというハードな行程となった。それでもはじめて汽車に乗る者もあり、車中が大騒ぎとなった。車窓の景色も美しく、多感な中学生たちには、まさに修学の旅となった。

仙台に着くと、守峯に不屈の精神を植えつけ、世の中への目を開かせる体験が待っていた。試合時間は1時間と決められ、両校の選手がグラウンドに進み出た。みると、仙台一中の生徒はみんな靴を履いており、対する荘内中学ではほとんどが裸足であった。靴もふくめて、都会人



相良守峯近影

らしい出で立ちの相手チームは、みるからにスマートで大人びて見えた。サッカーが靴を履いてやる競技だと、そのときまで知らなかった守峯たちは違反ではないか、とすら思った。

「野蛮人、野蛮人」と、仙台一中の観覧席から弥次が飛ぶと、荘内中も「何を、兵隊靴をはいて」と負けずに応酬した。アウエーでの試合というハンディは、むしろ守峯たちの闘志に火をつけ、負けられないという思いを強くさせた。結果は二対ゼロで荘内中の勝利であった。

サッカーは守峯に多くのことを教えてきたが、この他所での試合は、気後れすることなく一丸となれば勝てる自信を与えた。人間は誉められるよりもなめられた方が、闘志が出てくるものであり、困難を突破した時に得られる充実感こそが本物であることを学んだ初めての体験であった。

ドイツ語を道行として

中学卒業後、一高の受験に失敗した守峯は、一年後金沢の四高文科に進学する。高校卒業間近になると、大学で何を専攻するかと迷うが、語学が得意な守峯はドイツ語を選んだ。明治維新後ずっと日本がお手本にしてきたドイツ風

な教養は、特に学生の間で人気を得ていた。生涯の師であり目標であったゲーテとの出会いは、この時から始まった。

大正6年、東京帝国大学に入学する。語学が専門である守峯が、後年、教わらなかった文学史や作家論などを講述し、執筆刊行できたのは、この時代の蓄積があったためと言われている。大学を卒業した守峯は、水戸高等学校の専任講師の職を得、翌年教授に昇進する。この高校に弟守次が入学し、守峯がドイツ語を担当したので、教室で一年間兄弟が顔を合わせることになる。守次はのちに東大の教授となり、心理学者として『記憶とは何か』などを著し、長く日本心理学会の会長をつとめた。

大正13年、守峯は以前から望んでいた一高に転任する。独文学者として名声の高かった教授たちと接する機会が増え、教わることも多く充実した日々を送る。家庭的にも結婚、一人娘の久美子の誕生と続き、生活人としても安定をみた。

昭和5年、34歳の時、文部省在外研究員としてのドイツ留学が決まり、ベルリン大学の聴講生となる。国の風土、思想、芸術、伝統などを直接の体験によって理解しようと考えた守峯は、音楽会や劇場に何度も通ったり、ゲーテゆかりの地を歩きまわった。5百余日の体験は、学んだ文字を活きた言葉に現地で再編成する、貴重なものとなった。

帰国後、守峯は東京帝国大学の助教授として招かれ、初めて開講されるドイツ中世の語学と文学を担当することになる。『独和辞典』の編纂に携わるのは、ちょうどこの頃である。

昭和22年、守峯は東京大学独文科教授に就任するが、その後の彼の活躍はめざましい。日本独文学会を創設すると、理事長として日独学術交流を図り、機関誌の発行や『ゲーテ辞典』を完成させる。

昭和30年には西独大統領から、日独文化交流並びに親善に尽くした功により、大功劳十字勲章を受章する。日本ゲーテ協会を再建するとともに会長に推され、昭和39年には紫綬褒章を、昭和42年の春の叙勲で勲二等瑞宝章を

受章する。その翌年にはドイツ大使公邸にて「ゲーテ賞牌金賞」を授与され「ゲーテの相良」と言われるようになる。

昭和43年、文化功労者として顕彰状を、そして昭和60年、守峯が90歳のときドイツ文学、ドイツ語学に対する貢献により文化勲章を受章する。口数が少なくなっていた守峯は「一生に残る悦ばしい日だった」と家族にこの日の感想を語っている。

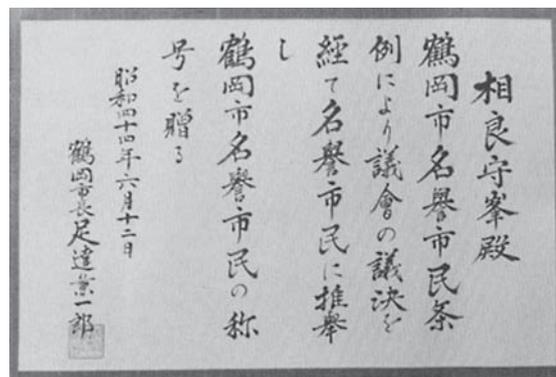
鶴岡市名誉市民第一号

昭和44年、生まれ故郷である鶴岡市は守峯の活躍を称え第一号の名誉市民に推挙する。

東大定年後に教鞭をとった慶応義塾大学の教え子たちでつくる白駒の会では、守峯の愛唱歌「雪の降る町を」を全員で合唱してお開きになる。この歌を歌うとき、守峯は軽く眼を閉じて、はるか故郷を思い、自分が歩いてきた道などの様々な思いをこめて、歌詞をかみしめるように歌っていた。故郷を愛してやまない心が、そのまま伝わってくるような歌い方であったという。

せめて生命の長さだけでもゲーテを凌ぎたいと考えていた守峯は、平成元年10月16日、ゲーテの生涯の日数を4300余日超えて94歳で他界する。

「ゲーテ自身が最高の作品である」と口にしてきたドイツ学者は、「相良守峯の生涯」という鮮やかな作品を完結させた。あくまでも麓において、大切な山峯を謙虚に見守っている、まさに名前のごとき一生であった。



名誉市民証

表 彰

この度 齋藤壽一先生が栄えある厚生労働大臣表彰を受けられました。
誠におめでとうございます。



齋藤胃腸クリニック
齋藤 壽一 先生

救急医療功労者厚生労働大臣表彰

長年にわたり救急医療の発展に貢献された
功績が認められ、厚生労働大臣より表彰
されました。

(9月9日表彰)

広島市内土砂災害義援金のお礼とご報告

去る9月29日付、皆様からお寄せいただきました義援金を広島県に送金しましたことをご報告いたします。温かいご支援とご協力感謝申し上げます。

僕のお宝 ～山下達郎との思い出～ わたしのお気に入り

山下達郎（達郎）、シンガーソングライター、作曲家、音楽プロデューサーとして幅広い音楽活動をしており、竹内まりやの夫としても有名ですから皆さんご存知ですよ。8月に新潟で行われた達郎のライブへ初めて行って来ました。噂には聞いていましたが、休憩を挟まない3時間に及ぶライブはまさに圧巻、高域までよく伸びる美しい声と凄まじいまでの声量で披露される達郎の歌唱力には圧倒されました。還暦を迎えてのこれだけの歌唱力はポップ系の歌手としては小田和正くらいでしょうか。

ところで、達郎がまだ高校生の頃（僕の医学生時代）、僕の住居へ出入りしていたことがあります。僕は赤羽に住んでいたのですが、はとこ（現在、芸大出のチェリスト）と達郎が同じ高校のブラスバンド部に属していたこともあり、はとこが達郎を僕の住居へ連れて来たのがきっかけで知り合いました。その頃の僕の住居といえば、僕や妹、さらには亡き妻（妹と同期）の友人が入りするアジトみたいな場所になっていたこともあり、達郎もちょくちょく訪れては、レコードを聴いたり、ギターを弾いたり、麻雀も良くやっていました。

そんな折、持ち込まれたのが、達郎が中学時代からのバンド仲間と自主製作したアルバム“ADD SOME MUSIC TO YOUR DAY”でした（写真1&2）。達郎の友人の自宅あるいはガレージでレコーディングし、ジャケットのイラストもメンバーが描いたという作品で、高校生としては内容的にもなかなかの出来栄です。100枚限定で作成された1枚を購入したのですが、当時は達郎がこんなに有名人になると思っていませんでしたので、今では超レアなお宝になりました。ところで、このアナログレコードは後にCD化され、達郎の公式サイトで購入可能だそうです。また、ウィキペディアで本アルバム製作までの経緯を詳しく知ることができます。

3枚目の写真は、僕が当時良く通っていた中古レコード店で手に入れた“THE HAPPENINGS”

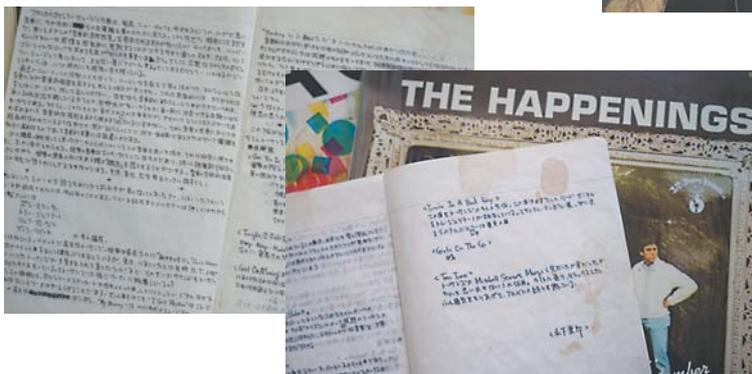
というコーラスグループのアルバムに、達郎が書いてくれたライナーノーツです。高校生の頃から音楽に対する造詣は並外れたものがあり、音楽評論家としても秀逸な一面を持っていました。B5判のノートに書き綴ったシミだらけの達郎自筆によるライナーノーツも私の密かなお宝のひとつなのです。（三原 一郎）



1 自主製作アルバム“ADD SOME MUSIC TO YOUR DAY”のジャケット。イラストはメンバーのひとり金子氏によるもの。原画はカラーだったが、予算の都合でモノクロとなり、急遽線画に書き換えられた。金子氏は、後にシュガーベイブ（達郎が中心となり結成された最初のバンド）のアルバム「SONGS」のジャケットデザインも手がけている。



2 ジャケット裏面。こちらもすべて手作り。A面はザ・ビーチ・ボーイズのカバー、B面はドゥーワップやロックンロールのカバー等で構成されている。右下の手書きによる48という数字は、レアの証。



3 達郎の自筆によるTHE HAPPENINGSのライナーノーツ。音楽評論家と見間違えるような解説文が、几帳面な字体でびっしりと書かれている。

表 紙

「 暮坪の棚田 」

真島 吉也

温海の暮坪地区7号線で暮坪の立岩付近の別荘群に差し掛かるあたりにある山側の小道を登ると昔ながらの日本の原風景が残る棚田が展開します。そこからの日本海は絶景です。

編 集 後 記

朝晩の冷え込みが激しくなり、秋色日毎に深まってまいりました。

さて、この度、御嶽山の噴火のニュースで活動していたDMAT、皆さんは知っていましたか？

私は初めて知りました。“災害急性期に活動できる機能性を持ったトレーニングを受けた医療チーム”で、2004年阪神淡路大震災の教訓により東京DMATを発足。各都道府県に配備が進んでいるそうです。山形DMATは県副知事より指定証を交付された病院に配備され、県内には6施設、庄内では日本海病院が指定を受けている。災害だけでなく2008年秋葉原通り魔事件でも派遣されていたとの事。どんなトレーニングを受けているのか一度聞いてみたいものです。

今月号は、医療学術懇話会抄録、禁煙指導講演会、天腎祭、准看護学院体育大会、YBCラジオ出演体験記、マイペット&マイホビーシリーズ、黒羽根先生の特別寄稿と豊富な内容となっております。本田先生がコンピュータを制作していたとは驚きでした。

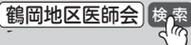
新体制になり約半年が経ちました。昨年より掲載している「わたしのお気に入り」は現在、理事の先生にお願いしております。その後は順次会員の先生にお願いしたいと思っています。マイペット&マイホビーシリーズで固辞された先生方もこの様な短編ならご協力頂けるのではないのでしょうか？併せて、会報へのご意見・ご要望もお待ちしております。

(伊藤 茂彦)

編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>